

事例 2

医師事務作業補助者として さらなる資格取得にも挑戦

東京通信病院（東京都千代田区）

病院に勤務する事務スタッフは、キャリアアップをめざし、新しい民間資格の取得をめざす人が増えている。2008年4月から東京通信病院（514床・木村哲院長）で医師事務作業補助者として勤務する篠塚恵さんもそのひとりだ。彼女は、医療秘書1級やホームヘルパー2級、簿記3級など、11種類の民間資格をもっている。

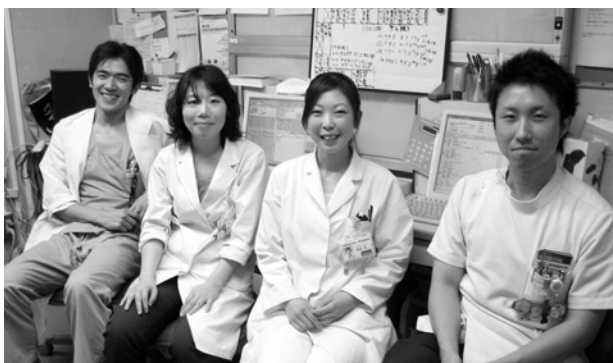
同院では、病棟の6～8階に医師事務作業補助者を1人ずつ配置しており、篠塚さんは8階の消化器内科、呼吸器内科、神経内科病棟を担当する。電子カルテ上に処

置が記録されているかどうか、栄養管理が必要な患者に対して医師からのオーダーが実施されているかなどを確認し、記録や実施されていない場合は、医師に確認のうえ、入力を行う。また、回診に同行し、医師や看護師の処置を把握して、D I VやC V、輸液ポンプやシリンジポンプなどの使用状況をチェックし、電子カルテに代行入力する。「医師は忙しいため、患者さんへの処置等の指示や記録をそのつどカルテに入力することは難しいと思います。着任当時は、電子カルテに入力されていないものが結構あり

ました」と篠塚さん。
こうした業務において、医療秘書の資格は役立っていると言うが、さらなるスキルアップの必要性を感じ、2月から「診療報酬請求事務」の資格取得をめざし、専門学校へ通う予定だ。

*

このように、八千代医療センターと東京通信病院では、民間資格の取得者を活かし、医療の質やサービスを向上させている。民間資格が続々と増えるなか、それらを上手に活用することが、サービス力アップの近道と言える。



医師たちとともに電子カルテに入力していく。
左から、大久保政雄医師、松原有木子医師、篠塚恵さん、鈴木一幹医師